

教授 Clifford Darby 卿

Alan R. H. Baker

Clifford Darby は歴史地理学の研究を大きく変革させた。

19世紀には、「歴史地理学 historical geography」という言葉は、一般に、探検や地図作成の歴史、あるいは政治的境界の変遷に関する歴史、または歴史の流れに及ぼす地理的条件の影響に関するものとして用いられており、地理学は歴史学の侍女に甘んじていた。

しかし20世紀の初頭までに、歴史地理学に対して、もっと独立してはいたが、より狭い役割が創り出されていた。それは、過去のある時期における特定地域の地理を叙述するという役割であった。1920年代までに、「歴史の流れにおける水平的断面 horizontal sections through time」を切り取って主題を記述するという J. F. Unstead の考え方や、「歴史的現在 the historic present」を含む「真の歴史地理 true historical geography」を描写するという Halford Mackinder 卿の考え方が受け入れられて、「歴史地理学 historical geography」という言葉は、過去の時代における地理のみを意味するというように、狭く限定されていった。しかしその後、この言葉の意図は意義深く拡張され、一つの新しい学問分野として認められるようになっていった。これは、実質的には Darby の信念と努力の賜物であった。

Darby は、過去の地理の復原という歴史地理学の考え方を慎重に改革しはじめ、地域ごとに過去の重要なそれぞれの時代における断面的研究を行うと

ともに、景観や地域の変化をも取り扱うという新しい伝統を確立していった。彼の影響を受けた歴史地理学は、研究資料としては歴史的なものをを用いるものの、研究の課題や手法は地理学的な研究分野として、次第に認識されるようになっていった。

学問の歴史に一つの新しい始まりがあるとするならば、Darby が1925年にケンブリッジへ来たことは、このような始まりの一つであった。彼は歴史地理学を一つの学問分野として振興し、伝道師のような情熱をもって、歴史地理学を、現代を対象とした人文地理学とは区別され、また他の歴史学諸分野とも異なる、独自性をもった学問分野として確立するために尽力したのである。

Darby の学歴は、最初から最後まで傑出していた。Neath County School (ウェールズ南部)を出てすぐ、わずか16才でケンブリッジ大学の St. Catharine's College へ入学を許可され、1928年には、地理学優等卒業試験の両部門で最優等を獲得して卒業した。1931年、彼はイングランドの歴史におけるフェンランドの役割を取り扱った学位請求論文によって、ケンブリッジ大学の地理学科で最初の Ph. D を授与された。Darby は、学部の学生だった頃地理学科の講師だった Bernard Manning の指導を受けていたため、イーストアングリアとマーシャとの間の障壁として、また動乱の時代における避難場所として、フェンランドを研究したその学位論文は、歴史への地理的影響を問題にする伝統的なアプローチを反映してはいたが、それはまた、試験

的にはあったが、オーソドックスな歴史地理学の研究範囲や研究内容に対する Darby の疑問をも表わしていた。

1931年、Darby はケンブリッジ大学地理学科の講師に任命され、翌年には同大学 King's College のフェローになった。そこで彼は、同大学最初の経済史学教授であり、彼の学位論文審査員の一人でもあった J. H. Clapham と親交をもつようになり、Clapham は彼の考え方に大きな影響を与えることになった。

献身的で、有能かつ自信に満ちた若い学者として、Darby は1936年に『1800年以前のイングランドの歴史地理 *An Historical Geography of England before AD 1800*』という論文集を編集したが、この書物は、その後ほとんど40年間もの間、この分野における定評のある参考文献となっていた。1940年、彼は自らの単著を2冊出版した。『中世のフェンランド *The Medieval Fenland*』と『フェンランドの干拓 *The Draining of the Fens*』である。これらは、景観の変遷に対する彼の関心がますます強くなっていったことを反映していた。

Darby の並はずれた研究努力は、第二次世界大戦によって、挫折させられたとはいえないまでも、屈折させられた。1940年、彼は軍の情報機関に配属されたが、1941年から1945年までは、その任を解かれ、海軍本部ケンブリッジ地理ハンドブックセンター the Admiralty's Cambridge Geographical Handbook Centre の文民編集長に就任した。そこで彼は、海軍で働く人々に、戦争当事国の海岸の状況ばかりではなく、自然地理や人文地理をも解説することを意図した30冊のハンドブックを作成した。

1945年から1949年まで、Darby はリバプール大学の地理学教授に就任し、1949年から1966年まではロンドン大学の University College で、また1966年から1976年まではケンブリッジ大学で、地理学教授を勤めた。ケンブリッジでは、再び King's Co-

llege のフェローになった。

Darby は、大学の管理運営からは慎重に距離を置きながら、自己の学科を整備することと、自分自身の研究を推進することに努力を集中した。彼はロンドン大学でそのことに最も成功し、University College で17年間過ごした後、“HCD” (Henry Clifford Darby の略称で、彼はこの呼び方で知られ、そのように知られることを好んでいた) は、スタッフ全員がある程度は歴史地理学者であるという、大規模で活気に満ちた学科を作り上げていた。

Darby はおそらく、彼の記念碑的な業績である『イングランドのドゥームズデイ地理学 *The Domesday Geography of England*』で世の人々に記憶されるであろう。この書物は7巻からなり、1952年から1977年までの間に刊行された(もっとも、ドゥームズデイ地理学に関する彼の最初の論文は1934年に発表され、最後のものは1987年に発表されたのではあったが)。彼が編集責任者であり、同時に重要な寄稿者でもあったこの膨大な書物は、過去において各地域がどのように異なり、時間の経過とともにそれらがどのように変化していったのかを示すために、彼が歴史資料をどれほど慎重に用いていたかをよく例証している。この主要な研究と並んで、他に特に注目すべきものとしては、Harold Fullard との共同編集による『新ケンブリッジ近代史地図帳 *The New Cambridge Modern History Atlas*』(1970年)と、彼自身が編集した『新イングランド歴史地理 *A New Historical Geography of England*』(1973年)がある。

同時に、これら数々の重要な諸業績が、かえって Darby の研究の多様性を覆い隠してしまう可能性すらある。彼は、歴史地理学の新しい考え方に傾倒することによって、例えば地名の地理学や、Thomas Hardy の作品に描かれたウェセックスの地理などを含む、広範な主題に関する論文を書くことができた。さらに、景観変遷に関するいくつかの主要なテ

ーマを確定しながら、イングランドの景観変遷について書かれた1951年の論文は、他の国々の景観の歴史的研究にとって、一つのモデルとしての役割を果たしてきた。

もちろん、歴史地理学を学問の一分野として確立することは、Darby が独力で成し遂げたわけではなかった。ベルファストの Estyn Evans やリーズの Glanville Jones、リバプールの Richard Lawton やパーミンガムの Harry Thorpe など、他にも重要な役割を演じた人々がいたし、Darby 自身、他の人々の研究、とりわけパークレイの Carl Sauer の研究の上に自分自身を築き上げていった。一方、彼の考え方は、例えばマジソンの Andrew Clark などの著作の中で支持され、発展させられていった。Darby の業績をこのような相対的關係の中に置いてみると、その絶対的な特徴を明確にすることができる。

歴史地理学の確立に対する Darby の貢献はきわめて大きく、彼は、自ら「新しい信念」と述べたものに向かってひたむきに献身した。彼は同じ信念を持つ人々とは喜んで交流したが、それに疑問を持つ人々とはそれほどではなかった。明らかに彼は、彼自身が1930年代の正統派に対して批判を開始していたという事実を見落としていたのである。

Darby の歴史地理学における学識と指導力は、国内的にも国際的にも認められていた。彼は、シカ

ゴ、リバプール、ダラム、ハル、アルスター、ウェールズ、ロンドンの各大学から名誉学位を授与され、王立地理学会や英国地理学者協会のみではなく、クロアチア地理学会や王立オランダ地理学会の名譽会員にも推挙された。彼はまた、王立地理学会からビクトリア勲章を、アメリカ地理学会からデイリ勲章を授与され、1967年には英国学士院会員に選ばれた最初の地理学者となった。1988年、彼は「歴史地理学の研究に対する功績により」、ナイト爵に叙せられた。これらの数々の名譽のうち最後のものは、Darby の妻 Eva と共有された。彼女は、1941年に結婚して以来、公私にわたって Clifford Darby を全面的に支えてきた。それゆえに、彼女もまた、歴史地理学への功績を認められるに値したのであった。

歴史地理学者 Henry Clifford Darby は、1909年2月7日、グラモーガン州リゾルブンに生まれ、1931～45年の間ケンブリッジ大学地理学科講師、1945～49年の間リバプール大学地理学科教授、1945年イギリス帝国将校、1949～66年の間ロンドン大学 University College 地理学科教授、1966～76年の間ケンブリッジ大学地理学科教授を歴任し、1967年英国学士院会員、1978年英国三等勲爵士、1988年ナイト爵に叙された。1941年、Eva Thomson と結婚し(2女をもうけ)、1992年4月14日、ケンブリッジで死去した。